

F 地域の学校との連携校事業（コアSSH（岡崎高校）連携事業）

1 尾張・知多地区連携SSH文化講演会 「強い心をつくる」

(1) 仮説

卓越した業績を残した科学者による講演会を実施して生徒の意識・意欲の向上に役立てようとするのが本事業の目的である。また近隣の中学の代表者や地域の高等学校の希望教員に参加してもらうことで、一宮高校 SSH への理解を深めることを目的としている。本年度は、建築家・安藤 忠雄先生に講演を依頼した。ご自身の体験をもとに自立、創造性について熱く語っていただいた。

(2) 方法

ア 地域（または県下）の理科教育における位置づけとねらい

平成24年3月に安藤先生にご講演を依頼して快諾を頂いた。その後、日程や形式、生徒の事前学習の内容などについて打ち合わせて実施に至った。

独学だけで、世界の多くの人々に認められ、いろいろな賞に輝く建築家になられた偉業の陰にどんな努力があったのか。若者に今、最も必要なものは何か。技術者として大切なことは何か。本講演を機会として、生徒がこれから何を学ぶべきなのかを考えさせていくことがねらいである。

イ 連携先・対象と規模

連携先：建築家 安藤 忠雄 先生（東京大学 特別栄誉教授）

対象と規模：一宮高校（生徒1,080名、教員70名、  
保護者156名）、一宮市内中学生48名、同教員19名  
尾張・知多地区の高等学校の教員6名、その他4名



講演会の様子

ウ 内容

a 事業の概要と現状の分析

ここ数年の SSH 文化講演会では、純粋科学の話題からやや離れて、生徒の活力を増し視野を広げる目的の講演を企画している。

b 事業の取組

- (a) 実施日時 平成24年10月30日（火）13:15～15:10
- (b) 実施場所 一宮市民会館大ホール
- (c) 注意・工夫した点

講演の前までに事前学習として安藤先生の著書『15歳の寺子屋 国境をこえる』を読ませた。

(3) 検証

ア 生徒の事後アンケートから

パワーポイントを駆使した講演で、それは情熱的で奥の深いものであった。

中学時代、数学の先生に影響をうけ、同じ頃、ご自宅の改修で出会った若い大工さんにあこがれたこと。これが建築家・安藤忠雄の原点になったこと。プロボクサーとしての夢と挫折。家庭の事情により、独学で建築学のすべてを学ばざるを得なかったこと。そんな中で出会ったル・コルビュジェ作品集。これがご自身の進む方向を指し示してくれたこと。海外放浪の旅。これら先生の暗中模索の時代の話は生徒の心をうった。

また、生徒には自立・親離れのすすめを話され、保護者には子離れのすすめを説かれる等、今の日本に一番必要とされていることを強く訴えられた。

さらに、講演の間に次々と映し出される安藤先生デザインの作品はどれも美しく、聴衆に感動を与えた。講演会後には、一部の生徒に辞退してもらわざるを得ないほど絶え間なく質問が続き、先生にはそのひとつひとつに丁寧にご回答いただいた。

イ 今後の事業に向けて

事前学習として講演者の著作を読ませることが生徒の講演を理解する上で効果的であった。今後も継続したい。

